松尾神社

お祭り・行事

二月	二十一日	祈年祭	午後五時
三月	八日	薬師祭	午後五時
四月	二十一日	春大祭	午後五時
六月	二十日	除蝗祭	午後六時
八月	二十一日	秋大祭	午後五時
九月	八日	薬師祭	午後六時
	二十六日	鎮火祭	午後六時
十一月	二十三日	新嘗祭	午後三時
十二月	三十一日	大祓祭	午後二時
一月	一日	歳旦祭	午後二時

※但し、祭礼の日時は変更になる場合があります。

北蟹谷（きたかんだ）の名称

松永《小耳入》寿永二年五月十日、木曽義仲倶利伽羅合戦の名称。

棚田《神明宮》水害に襲われやすい地域で、神社の屋根に風害水害除けの四神（朱雀・白虎・青龍・玄武）を瓦に施す。

北一《住吉神社》水運繁盛・航行安全の社。

末友《勝興寺跡》伏木勝興寺は南砺市福光土山の縁起とし、高窪そして当地末友に移り、勝興寺と称した。永正十六年（一五一九）には戸数三〇〇〇戸ともいわれ、一大門前町として繁盛した。

臼谷《小白山》小白山人皇四四代元正天皇の時、養老四年（七二〇）五月十七日、泰澄大師医王山に海蔵寺を開き、引き続き荊波の里東の山に小白山寺を開いた。

五郎丸《蟹懸橋》本叡寺住職に退治された大蟹が、五郎丸川にひっかかった所から、蟹懸橋と名づけられた。

内山《松根城址》越中・加賀の境に築城し、加賀藩砦の面影残した城跡。街道小原道（おはらみち）。

八講田《本叡寺》《三十番神社》山号は佛眼山、延歴十三年（七九四）桓武天皇直願所として、比叡山乗養坊阿闍梨上人が開創。神仏混合の時、本叡寺の奉られ神仏分離令により三十の神様に分けられる。

一日熱田大明神……十五日春日大明神……三十日吉備大明神　三十番神社

八伏《蟹池》山上にある周廻四十間許の池で水常に枯れず巨大な蟹が住み、恐れられていた。蟹谷（かんだ）郷名の発祥地。

松尾神社社務所

〒932-0845
富山県小矢部市松尾2140番地
TEL（0766）67-2752
北陸自動車道小矢部インターから5分
JR北陸線石動駅より車で10分

幣・拝殿

由緒

松尾神社（松尾大明神、松尾名神）地名（小矢部市松尾字談議所）

創建年月、沿革は不詳、大同年間（八〇六～八〇九）に山城国（京都）松尾大社より勧請し、当地鎮座の手向社（猿田彦大神）の合祀し伝承したものとされ、この頃から京都松尾大社は社領とした。一一四九年松永荘は京都松尾大社の荘園となり、重要な財源となっていった。松尾大明神を氏神にする秦（はた）氏は、奈良京都を中心に酒造・水路・鉄器・国土開発・養蚕等の技術を伝承し畿内（近畿）繁栄に導き、その技術は筑前・豊前・備中・備前・美作・播磨・越前・越中・尾張・伊勢・美濃まで及んだ。

そんな歴史の中、当神社も加賀藩との関わりが深く、前田家祈願所として加賀藩より二十五俵の領地をあたえられた。

加州で元禄十一年（一六九八）に金沢酒造家が首領となり、加賀・越中・能登の酒造家・酒商家が「三州講」を結び、祭祀に怠りなきことを藩主に誓い酒造家・酒商家の守護神として元禄十二年愛宕堂を造営し松尾大明神を祀った。

おおのぼり
大幡

本殿

御祭神

松尾神社の御祭神は

弘法大師之御作（仏像）之申申伝候（文政社号帳）である。

・大山咋命（おおやまくいのみこと）
山の神・地主神・酒の守護神として信仰厚く、特に酒造家が崇拝

・市杵嶋比売命（いちきしまひめのみこと）
宗像三女神の一柱。弁財天と同一視される。財福、芸能、美貌美人の神として多くの人の信仰

・倉稲魂神（うかのみたまのかみ）
稲荷社の祭神で穀霊神　農耕神　商業神　養蚕を司る神として崇拝

・少彦名命（すくなひこなのみこと）
天神社の祭神で、農耕技術　医薬の神　病気回復特に毒虫蝮の厄払い　酒の神様として崇拝

・猿田彦大神（さるたひこのおおかみ）
手向社で日本神話天孫降臨の際、神様（ニニギ神一行）の道案内した神　交通安全の神

獅子舞

社殿

松尾神社は、古来から蟹谷郷二十七ヶ郷社と称し、庶民の信仰厚く宮修理は松尾村、棚田村、平田村、平桜村、小森谷村、藤森村、名畑村、渋江、長村、道林寺村、綾子村、松永村、石坂出村、四日市村、杉谷内村、浅地村、下次郎島村、島村、鷲島村、茄子島村の二十一ヶ村であたった。これが春四月二十一日、秋九月二十一日の大祭の始めであるといわれ仕事休みにして参詣している。（今は八月二十一日大祭）

松尾神社の幣殿拝殿は明治九年石川県金沢から当松尾に移築。旧加賀藩主前田家の祈願所であった明王院愛宕堂を拂い下げられて、明治九年に松尾地内に移築したもので、元禄時代の建築物で移築に係った二十一ヶ村六五〇名程になり竪田［金沢市森本］に人足の宿泊飯場を設け、解体した部材をそこに集荷し、そこで棟梁指示により松尾神社へ運び欠損した部材は宮大工により応急処置されている。

古老の話

※移築に際し解体するのも反対の地元加賀人と対抗する為、氏子二十一ヶ村よりごうけつ力強い人約一〇〇人より選り、書いた居場所に配置し解体手助けし解体した部材を別の氏子が部材置き場の竪田地区へ運び、そこで整理した部材を別の氏子が松尾へ運んだ。

向拝周囲の彫刻